

実証期間：2021年（令和3年）10月7日～10月10日

目的

- カーボンニュートラルと利便性が両立した持続可能な地域交通・物流の確保
- 農業・観光・産業・経済の振興
- 買い物・交通弱者の住みやすい環境づくり

背景・課題

- 町市街地から離れた農村地区に住む交通弱者への買い物支援
- ICT活用による住民MaaS「予約制福祉バス」の実装化
- 高齢者の免許返納問題、町内の公共交通の不在

事業のポイント



- ✓ 陸送とドローン配送を融合した「新スマート物流」の社会実装
- ✓ 廃校になった小学校を物流拠点として利活用
- ✓ 町が貸与するタブレット端末からの商品注文

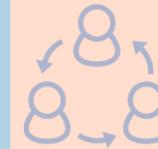
期待される効果



- ✓ ラストワンマイルの配送効率の改善
- ✓ 町民生活の利便性の向上、地域活性化
- ✓ 陸送とドローン配送のベストミックスによる脱炭素への貢献

推進体制

提供事業者



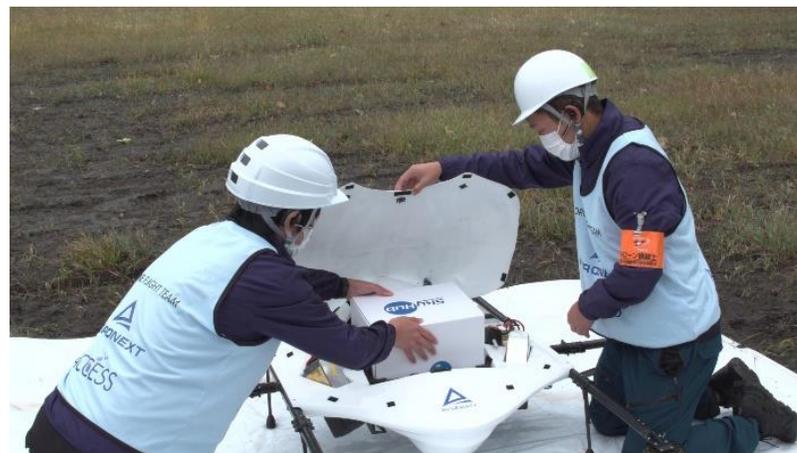
- イノベーションチャレンジ実行委員会
- 株式会社エアロネクスト
- セイノーホールディングス株式会社

概要

- ✓ 昨年8月に上士幌町、セイノーHD、エアロネクスト株式会社、株式会社電通の4者が締結したドローンを含む次世代高度技術の活用による「持続可能な未来のまちづくり」に関する包括連携協定に基づき、10月に日本初の個宅への買い物代行ドローン配送実証を実施しました。
- ✓ 今回の実証は、町市街地から離れた農村地域に住む交通弱者への買い物支援を想定し、食料品をドローンで個宅へ配送する実証を実施いたしました。
- ✓ 商品の注文にあたっては、町がICT活用による地域住民の生活サポートとして実施している「予約制福祉バス」で無償貸与してるタブレット端末から行われ、将来的に免許を返納した高齢者が天気の悪い日や、外出ができない際でもいつでも好きな時に買い物ができる事を想定しています。



- ✓ 本実験は廃校となった小学校に地元スーパーの荷物を一時在庫したうえで、注文のあった商品を購入者の自宅の敷地内にドローンで直接配送しました。
- ✓ 同期間には、上士幌町の小・中学生を対象に「ドローン講座」も旧上音更小学校で開催し、トイドローンを使って操縦や法律の基礎知識に触れ、子どもから高齢者までドローンに触れる機会となりました。
- ✓ これらの経験を活かし、今年度は「ヒト・モノMaaSプロジェクト」として農業分野やヘルスケア分野、住民サービス分野など多方面でドローンの活用を検討しています。



事業費

1千万